

令和6年度 第1回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会 議事録

場所：佐世保市役所 5階 庁議室
時間：令和6年5月1日（水）14:00～15:30

≪1. 開会≫

（事務局：中尾）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから「令和6年度 第1回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会」を開会したいと思います。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。
本日進行を務めさせていただきます、本協議会事務局長、中尾と申します。
どうかよろしく願いいたします。

【資料の確認】

協議会の開催にあたりまして、会の成立要件の確認でございますが、協議会規約第7条第2項に、「構成員の過半数の出席により成立する」という規定がございます。

本日は委員26名のうち、代理出席も含め、24名のご出席をいただいておりますので、協議会の成立要件を満たしていることをご報告させていただきます。

それではここで人事異動等による委員の交代がございますので、ご紹介させていただきますと思います。

○まず長崎県立大学深谷委員でございますが、本日はご欠席となっております。

○続きまして、松浦鉄道今里委員でございます。

○長崎県北振興局、大瀬良委員でございますが、本日はご欠席のため、代理として、道路維持第一課長の江頭様にご参加となっております。

○それから佐世保警察職交通課野口委員でございます。

本日はご欠席のため代理として、交通課交通規制係長小村様にご参加いただいております。

○国土交通省九州運輸局鉄道部井料委員でございます。

○同じく国土交通省九州運輸局長崎支局大上委員でございます。

本日はご欠席のため代理として長崎運輸支局首席運輸企画専門官近藤様にご参加いただいております。

○最後に佐世保市土木部長、森山委員でございます。

さらに本日は次期公共交通計画（素案）の作成に携わっていただきました、株式会社日本総合研究所から、ご担当者様にご出席をいただいております。

それでは本日の議題でございますが、お手元の会次第にございます通り、大きく3つの議題がございます。

皆様からのご意見を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお本日の会議は、協議会規約第7条第4項に基づきまして、公開とさせていただきたいと思っておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

《2. 会長挨拶》

（事務局：中尾）

それでは、協議会を開催するに当たりまして、まずはじめに、本協議会の会長である佐世保市の宮島市長がご挨拶を申し上げます。

（宮島会長）

改めまして皆さんこんにちは。

本日は、ゴールデンウィーク中の大変お忙しい中に、「令和6年度 第1回佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会」へご列席を賜り、誠にありがとうございます。

委員の皆様方には平素から、地域公共交通の維持活性化、利便性向上のために様々な協議を行っていただいております、これまでの取り組みに対するご支援、ご協力に心から感謝を申し上げます。

また、公共交通事業者におかれましては、慢性的な運転士不足への対応や、物価燃料高騰による輸送コストの増加など、経営状況が大変厳しい中、地域住民の足としての使命を果たすために、運行の維持にご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして感謝とお労いを申し上げます。

さて、本協議会におきましては、昨年5月に、「佐世保市・佐々町地域公共交通活性化協議会」として、新たな協議体制を構築し、令和7年度からの次期地域公共交通計画策定に向け、各公共交通事業者様からのデータ提供等のご協力のもと、計画策定に必要な、調査検討を行い、3月末に計画素案を取りまとめたところでございます。

この計画素案に基づきまして、今後、関係者の皆様との協議を重ね、今年度中に次期計画を策定することとなりますが、委員の皆様方に改めまして、本計画策定へのご協力を賜りたいと思います。

本日は、佐世保市の機構組織改革に基づく活性化協議会規約等の改正や、現佐世保市地域公共交通計画の変更についてご審議いただくとともに、次期地域公共交通計画素案についてご報告させていただき、皆様からの忌憚のないご意見を賜り、今後の公共交通の利便性向上を目指していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。

結びになりますが、皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念を申し上げまして、開会に当たりましてのごあいさつといたします。

どうぞ、本日もよろしくお願い申し上げます。

(事務局：中尾)

ありがとうございました。

それではここからは、宮島会長に進行をお願いしたいと思います。

会長よろしくお願い致します

《 3. 議題 》

(宮島会長)

はい。

ここからは私の方で議事を進行させていただきます。

お手元の会次第に沿って進めて参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、本日の議題の最初は、
議題の（１）「佐世保市・佐々町の地域公共交通活性化協議会規約等の改正について」
でございます。

事務局から説明をお願いします。

(事務局：藤下)

※「佐世保市・佐々町の地域公共交通活性化協議会規約等の改正について」（省略）

(宮島会長)

はい。ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、何かご意見等はございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

《 質問・意見等なし 》

(宮島会長)

それでは、ご意見等ないようでございますので、第1号議題につきましては、承認をしたいと思います。よろしいでしょうか。ご承認ありがとうございました。

それでは次の議題に移ります。

議題(2)、佐世保市地域公共交通計画、(旧佐世保市地域公共交通網形成計画)の変更についてです。事務局から説明をお願いします。

(事務局：藤下)

※佐世保市地域公共交通計画(旧佐世保市地域公共交通網形成計画)の変更について(省略)

(宮島会長)

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。

吉田委員どうぞ。

○(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

すみません、語句の説明を教えてくださいたいのですが。

フィーダー補助というのはどういう意味でしょうか。

(事務局：吉永)

フィーダーについては、支線という意味ですが、バス路線における枝線を指します。

今大野地区で「まめバス」という、コミュニティバスを運行しておりますが、これが国からのフィーダー補助事業により運行しています。

本線となる幹線から、波及した地域を運行する「まめバス」がフィーダー系の補助金を受けている路線になります。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

はい。ありがとうございました。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

《質問・意見等なし》

他にご意見ご質問もないようでございますので、第2号議題につきまして、承認をいたしました。

と思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。
ご承認ありがとうございました。

それでは次の議題に参ります。

議題（３）、「次期佐世保市・佐々町地域公共交通計画（素案）について」でございます。
事務局から説明をお願いします。

（事務局：藤下）

※「次期佐世保市・佐々町地域公共交通計画（素案）について」（省略）

（日本総合研究所：松村委員）

※地域公共交通計画（素案）の内容について（省略）

（宮島会長）

はいありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。

○（長崎県交通運輸産業労働組合協議会：野原委員）

市長の挨拶の中で、佐世保市の活性化に、市を挙げて全力で取り組むという言葉がありましたので、今日この会議に来る時、うきうきして来ることができました。

今後ともよろしくをお願いします。

資料の中に、官民連携による運転手の確保、取り組みがありますけど、具体的な部分があれば、何か教えてもらいたいと思います。

（事務局：吉永）

先ほどこの計画の中で現状分析の説明がありましたが、今後、バス路線の運行というのは運転士不足に伴って、非常に厳しくなってくるものと思います。

当然、路線が短縮される、一部廃線される、或いは減便される、そういった中で、地域の方の移動が非常に厳しくなって参ります。

そうならないために、今、市の方で、事業者と地域と一緒に取り組んでいるのがコミュニティバスであったり、デマンドタクシーの運行制度になります。

今後、市で取り組んでいるようなコミュニティ交通部分の、運用をもう少し利用者が使い勝手がいいような運用に変えていったりとか、或いは交通事業者がそもそもいないような地域の中で、地域の方々と連携して、いろんな制度を活用して自家用有償運送制度であったり、そういったものを活用しながら、地域と一緒に取り組めるようなことを考えていきたいと思っております。

(長崎県交通運輸産業労働組合協議会：野原委員)

ありがとうございます。

45 ページに、説明をされた部分で、運転士の予測、というのが出ております。

25 年、約 100 を基準として、3 人ぐらい減ると。30 年に 7 人ぐらい減るという予測が出ておりますけど、私が持っている資料の中には、西肥バスの中で、10 年間で 97 人、運転手が減っております。約 1 年に 10 人減っております。それに伴って、この 3 年間で、タイヤ 2,000 本切っております。

令和 4 年 3 月 24 日の分 1,065 本。それから 5 年度、去年は 467 本、今年の 4 月、461 本、これは切りたくて切ったわけではありません。運転手不足です。

運転手がある程度確保できれば、切らなくてすむ。お客さんにも迷惑がかからない。

それと切れれば切るほど収入減になります。我々のボーナスから手当、昇給、全部にかかってきます。

今、交通会議の中でいろんな会議を行っておりますけど、すべて、運転手不足からきた部分です。運転手はどうやって確保していくのか。民間だけではもう無理です。

日本全国、官民一緒になって運転手を確保していく。具体的な部分っていうのはいろいろありますけど、具体的な部分を、やはり市と民間と、考えながらやっていかないとこれはもう絶対にできません。

私たちの運転手不足の中であと 10 年後、佐世保市内の中心部だけしか走らないと、商業高校に行くのも 3 分の 1 しかバスを出せないというふうなことが、多分起こってくるだろうと考える中で我々は行動しております。

1 年後に 10 人、10 年後にまた 100 人、どこかで手を打たないことには、もうどうにもならないです。もうきれいごとの話じゃないです。

我々も全国の交通の会議の中でもいろいろ話をするんですけど、都会の一部分と、地方の部分と、大幅に考え方が違うんです。やはり地方は地方の考え方でやっていかないことには、都会の部分と、例えば福岡のど真ん中の話と、佐世保の話は全く違います。

連結バスを走らせる。どこを走らせるんですか。それと、いくらかかるんですか。億単位のお金ですね、1 台。億単位のお金をどこから捻出していくのか。

そういうことをいろいろ考えてそれだけのお客さんがいるのか。綺麗事での話じゃなくて、具体的な、身になるような話をもっと掘り下げてやってもらいたいと私はつくづく思っておりますので、どうかそういうことも含めて、運転士確保の部分はどうやってやるのかというのは、1 番の 1 丁目 1 番地でやってもらいたいと思っております。

以上です。

(事務局：中尾)

はい。ご意見ありがとうございます。

今おっしゃられたように、路線の維持であるとか、特に運転手の確保に関しましては同じような危機感を私たちとしても思っております。

今ここで具体的にどういう方法があるのかっていうのはまだご紹介できる段階ではござ

いませんけれども、同じような危機感を抱いておりますので、あらゆる資源を活用して、あらゆるネットワークを活用して、我々行政も一緒になって、運転士の確保に努めて参りたいと考えていますので、具体的な方法、或いは実現可能な方法を、しっかりと、この計画策定の中で示していきたいというふうに考えておりますので、ぜひ事業者の方々も、ご協力いただければというふうに考えております。よろしく願います。ありがとうございました。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

はい、山口委員

(西肥自動車：山口)

西肥自動車山口でございます。

56 ページに形態といいますか、目標設定ということで、数値を設定されております。

これを拝見すると、やはり「基本方針 3」に具体的な目標数値がありますけど、非常にこの実現については厳しいと（思われる）。先ほど野原委員の話がありましたけども、現状としては民間事業者の努力だけではなかなか難しいと（思われる）。

例えば「基本方針 4」の人口 1 人当たりの、乗降客数の維持っていうのがありますけども、コロナ禍の中で、なかなか生活様式が変化して、全体の乗降客が減っている状況の中でこれをいかにして、コロナ前の水準まで持ってくるかというところ、なかなか民間の方では、具体的な方策は出ませんので、行政の方とタイアップしながら、いろいろな施策を打ってやっていかないと、なかなか実現できないのかなと思います。

あと先ほど、個別説明がありましたけども、公共交通の公的資金投入額の適正化というのがございました。35 ページの収支率についての推移が書いてございましたけれども、直近でも、収支率が 77% ということでありますので、100 円の経費を掛けて 77 円しかもらえてないという事業ですのなかなか我々の自己資金で、設備投資をすべて賄うというわけにいきません。

この計画の中でも、いろいろ大きな設備投資が必要な施策というのを盛り込んでありますので、具体的に、2023 年度から 10%増額した額ということを書いてありますけれども、なかなか、これが具体的に施策として取り組むときに、キャップとなるのではないかという懸念がございます。

あと 1 億 6,687 万 5000 円の中身も、これが昨年の予算ですかね。例えば、ランニングコスト的な意味合いであれば、継続的に、予算執行しないといけないのではないかと思いますので、この 10%ということであれば 1,600 万しか使えない。

というようなこともありますので、事業者サイドから言うのはなかなか心苦しいんですけども、なかなか厳しい計画ですし、民間だけでは、実現がなかなか難しい目標だという実感を持っています。

私から以上です。

(事務局：吉永)

先ほどの基本方針につきましてはコンサルの方からご説明がありました通り、現時点での目標値ということで、例えば「基本方針 3」の公共交通への公的資金の投入の適正化、こちらに書いてあります通り現時点での仮設定ということで、あくまで 10%までしか出さないということを記載したわけではございません。

コンサルで話があったようにこれからの取り組みということをやっていくのかというのが、計画の過程、計画を検討する中で明らかになってこようかと思えます。

その取り組みによっては当然大きく変わろうかと思っています。そこはこれからの事業者さんとの協議の中で、その取り組みを作っていく中で大きく変動するものというふうに考えていますので、決してこの数字にとらわれているものではございません。

あと例えば「基本方針 4」の目標値に関しても、これも同じように、利用増進策の取り組み、利便性向上によって、利用者を増やすような取り組みっていうのも、進めていく中で、この変化っていうのも当然変わってこようかと思えますので、これから議論を重ねていって、こういうものをまた精査していきながら、新たな目標を設定というところを置いていきたいなというふうに考えています。

それから先ほど、ここで 57 ページの具体的な施策体系の中に、連節バスの導入ということがありまして、ここは非常に厳しいというお話もございました。これも、この協議会の中で委員さんの中からご意見をいただいております。

そういった考えアイデア、そういうものが本当にできるかできないかっていうところを、きちんとやっぱり検証していくっていうことで、この取り組みの中には、今の時点ではそういうものも載せております。

今後ランニングコストとそれからイニシャルコストも含めて、ここも実現可能かどうかというところを、そういった意味で、すべてにおいて検討していきたいというふうに考えています。

(宮島会長)

他にご意見ご質問ございませんでしょうか。

吉田議員。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

日本総合研究所様にお聞きしたいのですがよろしいでしょうか。

この 57 ページ、58 ページの施策を見て、お聞きしたいのですが、今までの市の未来図と言いますか、(佐々町と)連携しての佐世保市ならではの施策、これは他の市や県に比べて素晴らしい文言が入っているとか、画期的な取り組みを推進されているなっていう箇所はございますか。教えていただければと思います。

(日本総合研究所：松村)

はい。ご質問ありがとうございます。

佐世保市ならではの取り組みが計画に盛り込まれているかということについての

質問と理解いたしましたけれども、やはり基幹的な路線というものと、いわゆる補完的な路線っていうものが、比較的細やかに設定されているとは思っています。

今のタイプ1とかタイプ2とかタイプ3とかですね。

特に合併後の佐世保市・佐々町については非常に広域でございますので、それぞれの地域拠点をしっかり定め、それをまずは、鉄道バスでしっかりと、結んでいくといったところ。そこに支線的なものが紐づき絡んでくるというところだと思います。

そのあたりは、先ほど佐世保市はバスの分担率高いっていうのがございましたけれども、バスを中心とするしっかりとしたネットワークが形成され、さらに、今後この5年10年でも、これがしっかりと維持されていくというところ、そういったところが非常に特色かなと思っております。

加えてこれはまだまだこれからかなと思うのですが、まず、松浦鉄道を含めて、鉄道とバスの連携といったところ、こういったところは非常にこの地域、いろんなやり方、いろんな連携の仕方というのが今後とも出てくるかなと思っておりますので、そういったところ、共通運賃みたいな話も含めて、特色的なことができれば、非常にこの地域らしい施策になっていくのかなと思っておりますのでございます。

以上でございます。

(宮島会長)

吉田委員。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

ありがとうございます。

会長へお聞きしたいんですけれども、市長の施策としてやっぱり子育てっていう部分に力を入れられているということをお聞きしたのですが、それは佐世保市ならではだと。私はすいません子育ての分野から来ているので、その割にはというのは失礼な言い方かもしれませんが、どこにもその文言がないように思っています。

それが佐世保市ならではの部分になるのではないかなと思うんですが、マスタープランを作るにあたって、これが次からアクションプランに変わるにあたって、やはりそのマスタープランにもう少し佐世保市ならではの、文言を入れ込むことは可能じゃないかなと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

(宮島会長)

はい今吉田委員の方からご指摘をいただきました。

私もかねてから申し上げております通りに、子育て支援というものを施策の、1丁目1番地として、人口減少対策に取り組んでおるところでもございます。

そうした中でいわゆる市民全体、地域民の皆様方の全体に限らず、やはり高齢者の皆様方から、やはり子供たちがしっかりと移動をしていただけるような対策をとるということは重要なことだと思います。

これは教育の観点からも、重要なことだというふうに考えておりますので、今ご指摘をいただいたことも踏まえて、今後検討をさせていただきたいと思っております。

(子育て支援団体ママパパ：吉田委員)

ぜひ、具体的な文言を事務局にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

はい、水田委員。

(佐々町町内会長町会連合会：水田委員)

小さいことなのですけれども、このICカード機能拡大と、58ページの方にありますけど、そのスマートカードについて、他の自治体のスマートカードとの連携をおこなっているのでしょうか。

(事務局：吉永)

西肥バス、MR、させぼバスで使われているICカードが、全国共通の交通系ICカード、「10（テン）カード」と言われるもので、これはSuicaとかSUGOCAとか、そういった利用が可能な地域でも当然使えますし、逆にこちらでも使えます。このICカードはそういう全国共通のカードとなっています。

(佐々町町内会長町会連合会：水田委員)

はい。実は、先日、東京に行ったときに、ロッカーを探しており、空きロッカーがたくさんあったけれども、そこがSuicaでしか使えないロッカーで現金が使えなくて、空いてるのに田舎から来たら不便だなんていうのが1つ思ったものです。

これでSuicaと、スマートカードの連携ができてるんだったら、このスマートカードで使えるということですよ。

そういうところをもっと大きく通知していただければ、佐世保のスマートカードの購入も増えるんじゃないかなと思うんですけれども。

(事務局：吉永)

すみません、SUGOCAが使えるロッカーを、私自身がよく存じ上げていないのですが、基本的にはSUGOCAが使えるのであれば、このnimocaも使えるのではないかというふうには考えてはいます。

今車内での現金の取扱いというところに関しても事業者の負担が生じているかと思っておりますので、このICカードの利用機能拡大については、今でもnimocaカードはコンビニとかでも使えますが、(事業者の負担軽減等のためにも)そのようなキャッシュレス化の方の動きをもう少し、進めていきたいと考えておりますので、先ほどご意見があったような、いろい

るな対応のことも頭に入れて検討していきたいと思っています。

(佐々町町内会長町会連合会：水田委員)

ありがとうございます。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

(オブザーバー 西肥バス：中塚常務)

オブザーバーからですけど今の件でよろしいですか。

西肥バスでございます。オブザーバーでございますけども、今の水田委員のご質問に若干補足をさせていただければと思います。

当社が導入しています nimoca のカードは、10 カード、先ほど事務局からもありましたように、東京でいう Suica とか、PASMO とか、関西の ICOCA とか、あと JR九州さんの SUGOCA とか、同じ共通の利用ができるカードになっております。

それ以前に使っていた長崎スマートカードっていうのは県内だけでしか使えなかったんですけど、それでは非常にやっぱり利便性が悪いということで今回更新をする際に、nimoca の導入をしています。

私を知りうる限りですけれども、東京の Suica で支払いをするロッカーについても、nimoca でも支払いができますし、当然、列車とかバスとか、北海道から九州までその 10 カードと呼ばれるマークが書いてある分が、大手の部分はほとんどでございますので、利用は可能だという認識をしておりますので、もし次に行かれた際は、1 度かざしてみられるといいかなと思います。

(佐々町町内会長町会連合会：水田委員)

反対も大丈夫ですか。

(オブザーバー 西肥バス：中塚常務)

反対も大丈夫です。

東京の Suica を持ってきて西肥バスにも乗れるし松浦鉄道さんにも乗れるというようなことになっております。

(佐々町町内会長町会連合会：水田委員)

収入（チャージ）の方は、Suica で買うよりも、nimoca で買ったほうが良いのか。

(オブザーバー 西肥バス：中塚常務)

チャージ額は同じですね。利用によってポイントがついたりつかなかったりっていうのは

各カードいろいろあるみたいですけども。

1,000円入れると当然1,000円分のバリューはたまりますし、佐世保で1,000円積み増した分を東京で使うというのも、普通にその逆も使えますので大丈夫でございます。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

野原委員どうぞ。

(長崎県交通運輸産業労働組合協議会：野原)

今この計画をいろいろ読んで、私、旧市町村の交通会議に長崎県と佐賀県の方に出席しておりますが、市の方で伊万里とか、いろんなところの中身がほとんど似ているんです。文言がほんの少し違うだけ、計画もあんまり変わらないと。

ただ佐世保市独自の部分も含めて、中身をもうちょっと前に進むような部分があればというふうに思うのですが、余計なお世話かもしれませんけど、実際に現場で働く人達のことでもよく私たちは知っておりますので、その分も含めて、よろしくお願いします。

(事務局：中尾)

ありがとうございます。

全国的に公共交通といいますか、地域交通が抱える課題っていうのが、ほぼ似たような状況だと思しますので、そこに対応する対策っていうのも、似たような形になってくるのだというふうには思いますが、佐世保市の場合は特におっしゃられたように、旧合併地域であったりとか周辺部であったりとか、また、MRとバスの住み分けと、いろんな特殊な事情がございます。

再編実施計画の中で、バス事業が一体化したという過去の経過もありますので、いろいろそういったことを含めてですね、私自身、佐世保市に一番合ったやり方っていうのを、この中で打ち出していきたいなというふうに思っておりますので、そこはしっかりと検討させていただきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

(宮島会長)

他にございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それではないようですので、次の議題になります。

《4. その他》

それでは、4番目の「その他」のところ、事務局から何かございますでしょうか。

(事務局：藤下)

事務局からは特にございませんが今回、西肥バスさんの方からお知らせがあるとのことでございます。よろしいですか。
西肥バスさん、よろしくお願いいたします。

(オブザーバー 西肥バス：高木)

はいオブザーバーの方から失礼いたします。
西肥バスの高木と申します。

こちらA4のチラシを出させていただいておりますけれども、これは佐世保市の中の「月刊ならでは」という冊子が、コンビニとか、いろんなところで見受けられるかと思っております。

この中で今どきの若い方の働く方の紹介をしている中で、当社のバス運転士を紹介させていただいております。

彼は波佐見高校から新卒で、当社に入社して、約1年で、今回制度が変わったということもございまして、約1年で大型2種免許を取りまして、この4月に、2種免許を取りまして、今実際にバス、路線の運転手として教習を受けて、間もなく現場の方に出ていくというような状況になっているものを紹介させていただいております。

このように、当社では他のバス事業者さんも、最近の取り組みとしてありますが、高卒の新卒からバス運転手になるものを採用しているという状況がございます。

当該新卒運転士が3人目ということで、そのあと後輩が、今年も4月に2人入っております。

この2名についても、同じように約1年後には大型2種免許を取って、現場に出て、お客様をお運びするような仕事ができるように、取り組んでいるというところがございますので、紹介させていただきました。

委員の皆様方のお近くとかですね、お知り合いの方で、バスの運転手に興味があるような若者がいましたら、こういった職業もあるよというのを紹介していただけると非常にありがたいと思ひまして紹介をさせていただきました。

以上でございます。

(宮島会長)

はい。ありがとうございます。

その他の他の件につきまして何か委員の方からもご質問やご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは本日はオブザーバーとして九州運輸局からもご参加をいただいておりますけれども、運輸局の方から何かご意見等ございますでしょうか。

(九州運輸局：柚井主査)

九州運輸局交通政策部 柚井と申します。

本日は熱心なご議論ありがとうございます。

私の方からは1点国の動きのご紹介をさせていただきたいと思います。

先週の金曜日ですけれども、今日ご議論いただきました地域公共交通計画、この計画の実質化に向けた検討会というものが本省で設置をされておりました、そちらで、中間取りまとめということで、有識者の方々からのご提言というのが、公表されたところでございます。

その内容というのが、多岐にわたっているんですけれども、今後、そういったものもご覧いただきながら、交通計画を作っていたいただければなと思っております。

短期的な目標としまして、2027年までに、トップランナーとして、全国で100件、今回の提言の内容を踏まえた計画を作っていたという目標値が掲げられております。

佐世保市さんもちょうど今、まさに作っていらっしゃるところでございますので、並行してという形になるかなと思いますけれども、ぜひそういった取り組みに関しても、横目で見ながら、計画策定を進めていただければと思っております。

簡単でございますが以上です。

(宮島会長)

貴重なお話ありがとうございます。

今後とも事業、持続可能な公共交通を実現するために何卒ご助言、またご支援を賜りますようお願いいたします。

それでは本日予定をいたしておりました議題につきましては終了いたします。

本日はお忙しい中ご参加をいただき、重ねてお礼を申し上げます。

私から以上でございます。

事務局へ戻します。

(事務局：中尾)

はい、ありがとうございました。

本日はお忙しい中お集まりいただいた中で、活発なご議論いただきまして、大変ありがとうございました。

本日いただきましたご意見をもとに、しっかりと計画の中身を詰めていきたいというふうに思っております。

事業者様或いは運転士の皆様方にも、ご協力いただく部分があるかと思っておりますので、ぜひご支援賜りますよう、よろしくお願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして、「令和6年度第1回佐世保市・佐々町地域交通活性化協議会」を終了させていただきます。

大変ありがとうございました。

お疲れ様でした。

(終了)